

県内行方不明者  
前日から2人減る

東日本大震災の県内  
の死者は二十二日午後

六時現在、千八百三十  
九人で増減はない。行  
方不明者は二百三十九  
人で前日から二人減っ  
た。

住宅の被害は全壊、  
半壊、一部破損、床上  
・床下浸水を含め二十  
万六千百十二棟と四百  
四十一棟増えた。

行方不明者	死者
239人	1839人
—	計
—	3人
—	1人
1人	10人
—	1人
—	12人
—	3人
—	1人
5人	454人
23人	640人
1人	2人
2人	11人
6人	19人
1人	80人
5人	30人
38人	146人
1人	6人
—	109人
—	1人
38人	310人

※人数は22日午後6時現在。合計は死者  
・が県、行方不明者が県警の発表。死者  
は、行方不明者で死亡届が出された人、  
県内に居住し県外で被災した死者を含  
む。市町村別は県の発表。行方不明者の  
合計と市町村別の人数は一致しない。

【県内死者・行方不明者】

最大は和田地区の2.8倍

本宮の放射線量詳細調査

政府の原子力災害現  
地対策本部と県災害対  
策本部は二十二日、本  
宮市の放射線量の詳細  
調査結果を発表した。  
高さ一層地点の最大値  
は和田地区で毎時二・  
八マイクロシーベルト。特定  
避難勧奨地点の指定の  
目安となる毎時三・〇  
マイクロシーベルトを  
上回った宅地は  
なかった。

本宮市は「事前に独  
自の調査はしていた  
が、低い値で安心し  
ている。市としては特  
定避難勧奨地点に指定  
しない方針」としてい  
る。

六日に各宅地の庭と  
玄関前の地上五十センチ  
一層の線量を測定し  
た。和田地区で四十三  
地点、長屋地区で三十  
二地点を調べた。測定  
結果は高さ一層で和田

地区が毎時〇・六六  
二・八マイクロシーベルト、長屋地区  
が毎時〇・七〇一・

九マイクロシーベルト。高さ五  
十センチは和田地区で毎時  
〇・六二〇・三〇〇微  
ろシーベルト、長屋地区で毎時  
〇・六六二・三マイクロセ  
ィベルトだった。

避難準備区域  
16公園を調査

文科省

文部科学省は二十二  
日、緊急時避難準備区  
域内の公園の大気中の  
放射性物質調査の結果  
を発表した。

調査結果は次の通  
り。単位は大気一立方  
メートルあたりのベクレル。  
一番目の項目がセシウ  
ム134、二番目がセ  
シウム137の値。N  
Dは未検出。

緊急時避難準備区域  
がある四市町村の十六  
公園を調べた。大気中  
の放射性物質の濃度は  
同省が定期的に行って  
いる観測と同様の傾向  
で、同省は「日常生活  
で健康に影響が出る値  
ではない」と分析して  
いる。水道水の放射性  
物質も検査したが、い  
ずれも検出されなかつ  
た。

- ▽南相馬夜の森公園 (ND, 0.49) よつば公園 (0.38, 0.46) 旭公園 (ND, 0.63) 駅前北公園 (ND, 0.48) 鶴公園 (ND, 0.60) グリーンパーク (ND, 0.75) 東ヶ丘公園 (0.60, 1.32) 馬事公苑 (ND, 0.64) 原町運動公園 (0.39, 0.47) ▽田村グリーンパーク都路 (1.15, 1.97) こどもの国ムシランド・パンガロー (ND, 0.58) ▽川内館山公苑 (ND, 0.62) すわの杜公園 (0.61, 0.77) 高塚高原キャンプ場 (0.57, 0.96) ▽広野薬地ヶ丘公園 (ND, 0.41) ニッ沼総合公園 (ND, 0.66)